

るんるん (ルンビニ園広報)

発行者 児童養護施設ルンビニ園 広報委員

平成28年9月1日 第44号

園長のつぶやき

今年も夏休みが終わりました。ルンビニ園の子ども達は、学校が始まり慌ただしく動き始めております。

7月に参議院選挙が行われましたが、今回から、選挙権年齢が引き下げられ、18歳からの選挙となりました。画期的なこととは言え、18歳になった子ども達はどのように考えているのでしょうか。特に、施設に入所している子ども達にとって、置かれた境遇の中で、選挙（政治）をどのように捉えているのでしょうか。

私にとって選挙権は、大人の仲間入りといった感じでしたね。二十歳になれば大手を振って酒も飲めるしタバコも吸えて嬉しかったものです。が、それは大人になった感覚と言うよりも規制されていた箍（タガ）が外されたと言う感じでした。こんなことを暴露してはいけないのですが、事実、二十歳になる前から経験しましたからね。

しかし、選挙となると全く違います。二十歳にならないと、投票に行けないわけですからね。思い出しますと、最初の投票は何となく恥ずかしさがありましたね。ですが、回数を重ねていきますと、大人の大切な仕事であるといった責任の感覚が、徐々に造られていったように思われます。そのことが、自分は大人なのであると言った一種の自己肯定として、選挙の存在があったように思われてなりません。政治に関心を持つことは、とても大切なことだと思います。私たちが、生まれて死にゆくまでの人生に常に政治は関わっているのですからね。その中で、本来の大人としての成長に繋がっていくのだと思うのです。法務省が、成人年齢の18歳引き下げ方針を出しているようですが、今後の動きを見ていかなければなりませんね。

ルンビニ園の子は、原則18歳で卒園（退園）していきます。卒園すれば、殆どが自分の力で生きていかなければなりません。親の世話になることは滅多にないことなのです。むしろ、親の支えになっていく場合があるのかもしれませんが。親も、そのことを望んでいる場合が往々にしてあるわけです。いずれにしても、子どもの思いからしますと、この子たちの卒園後には、結構険しい途が待っていると思わざるを得ないのです。

退園していく子ども達に願うことは、これはあくまでも経験からなのですが、自立と調和なのですね。自立は、自らが生きていく力です。それは、自らが労働を持って食いつないでいく力です。他の力だけに依存してしまいますと、長続きがしませんからね。結局は、経済的困窮で事件を起こしてしまうと言った事例に

発展していくわけです。

調和は自立があって成り立つものなのですが、生活と仕事とのバランスですね。この子たちも、将来、家族を持つことになりましょうが、家族の生活と自らの人生を維持していくために「いちず」に働くと言ったあり方なのではないでしょうか。殊に、子どもを授かった時が問題なのです。同じ道を我が子に歩ませないでほしいのです。家族をしっかり守っていく、そんな生活を願うのです。しかし、それをどのように子ども達に伝えていくのか、これが問題なのです。私どものような施設には、子どもに伝承していけるモデルとなるようなものがないのです。小規模も大切ではあると思うのですが、やはりそこに、両親や兄弟・祖父母等で形成された家族の必要性を強く感じます。そのようなことから、里親さんの拡大は、おおいに期待される場所ですね。

仕事も家庭も、思い通りにならないのが世の常です。この思い通りにならない世の中において、自らをコントロールしていく力が、自立であり調和なのです。そんなことを、この選挙を通して感じさせていただいたところです。

花祭り

ルンビニ園恒例のお釈迦様の生誕祭「はなまつり」が5月8日（日）、ルンビニ園本堂にて執り行われました。今年は、富山西ロータリークラブの皆さんにもご参加いただき、お祭りはとても賑やかなものとなりました。



冒頭、理事長からのお話をいただき、さらにロータリークラブの皆さまからもお言葉をいただきました。4番ある「花祭りのうた」を全員で合唱し、その後、列をつくり、子ども達が順番になり小さなお釈迦さまのお姿に甘茶をかけてお祝い

しました。



何をお願いしているんでしょうね！

ルンビニ園児との田植え＝富山ライオンズ田植え体験＝

6月4日(土)、富山ライオンズクラブによる田植え体験の集いが行われました。ルンビニ園からは、児童21名(小学生14名、中学生5名、高校生2名)が参加をさせていただき、貴重な体験を積むことができました。

坂井義昭会長より、「田植えや稲刈り等の農作業を体験することにより、自然の恵みを知り、周りの人々への感謝の気持ちを培うことに繋がります。そして、心に残る思い出づくりにしてください。」と、お話をいただきました。その後、田植えの方法を学び、田植え作業が開始されました。



“北電青年部さんとの交流”

6月19日(日)、北陸電力青年部の皆さん20名がルンビニ園を訪問くださり、小学生との交流を図っていただきました。

18名の小学生は、青年部の皆さんとともにドッジボールや鬼ごっこ、ハンカチおとしゲームなど、多彩な遊びでひとときを楽しんでおりました。



～ジェンカで楽しんでいますね～

歯科検診

富山市歯科医師会による「歯科検診」が6月5日(日)、ルンビニ園体育館において実施されました。今回は、幼児9名、小学生20名、中学生9名、高校生10名、計48名の子ども達の歯を診ていただきました。

検診終了後、歯科医師会の皆さまによる紙芝居やバルーンアート遊びで楽しい時間を過ごしました。

“いもほり”

月岡西緑町の“ふれあい農園さん”のお計らいで7月10日(日)、ジャガイモ

の芋掘り体験をさせていただきました。

この日は20名の小学生が参加しましたが、子ども達はキャーキャー言いながら鈴なりになった芋を掘っておりました。終了後、塩ゆでのジャガイモが振舞われ、どの子も頬っぺたを膨らませて頬張っておりました。帰りには、ジャガイモのおみやげをいただき、とても嬉しそうにしておりました。

暑い熱い納涼祭



＝富山西ロータリークラブの皆様が焼きそば作りに奮闘しています＝“暑い（熱い）のです”

今回も暑かった。流れ落ちる汗をものともせず、今年もルンビニ園恒例の夏祭り“納涼祭”が8月7日（日）、ルンビニ園体育館において賑やかに開催されました。

納涼祭に先立ち、“みたままつり”が執り行われました。恒田理事長のあいさつの後、子ども達の代表と銘形専務が仏様に線香をあげ、さらに“みたままつりの歌”が唱和され、引き続き納涼祭に移りました。

坂本園長の開催あいさつにより、納涼祭が始まりました。体育館は、熱中症にならないかと心配するほどの暑さの中、射的や金魚すくい、くじ引きなど、お祭りの露店が並びました。また、浴衣を着た子ども達が行き来している姿に夏祭りの雰囲気が出され、懐かしさを感じさせてくれました。さらに、かき氷やジュースの販売も行われ、売店は涼を求める沢山の人だかりとなっておりました。

今年も、地域からも参加をみましたが、フォスターさんや富山西ロータリークラブの皆さまにもご参加をいただき楽しんでいただきました。特にロータリーの皆さんには、焼きそばを作ってください、参加者全員に 150 人前が提供されました。約 2 時間にわたった納涼祭も、瞬く間に終了となりましたが、どの子どもも手に沢山のおみやげを抱えて嬉しそうにしておりました。



《昔なつかしい射的で楽しんでいます》

魚津市一日里親会

第 46 回目を迎えた「魚津市一日里親会」が 8 月 27・28 日の両日開催され、各里親さんのもとで、ルンビニ園の子ども達 17 名が家族体験をしました。

初日は 10 時半より魚津市役所において受入式が行われました。里親会の林会長さまのご挨拶の後、魚津市長祝辞、ルンビニ園園長の謝辞、園児代表の言葉がありました。園児全員での「ありがとうの歌」の合唱が終わり、子どもと里親さんが紹介され、子ども達は里親さんにゆだねられることになりました。一日の家族が出来、魚津市のミラたんとともに記念撮影をし、それぞれの家庭のもとへと向かって行きました。

この後、子ども達はそれぞれの里親様とともに、楽しい一日を過ごすこととなりました。子どもには僅か一日の家族経験ですが、この経験が、大きくなった時、

子ども達への大きな力になるものと信じてなりません。



『ミラたんを囲んで記念撮影です』

翌日はミラージュランドにおいて、お別れの式がありました。お忙しい中、魚津市長様も駆けつけて下さいました。市長様より励ましのお言葉をいただき、最後に児童代表のあいさつで「一日里親会」は、無事に終了となりました。一日だけの家族でしたが、やはり別れは辛く悲しいものです。なごりは、いつまでもつきませんでした。



おわりに

先の台風により、犠牲になられました方々に深く哀悼の意を表します。また、被害に遭われた皆さまには、心よりお見舞いを申し上げたいと存じます。

今年の夏休みも終了しました。暑い夏休みでしたが、まだまだ残暑が厳しいですから、お互いに体調には気をつけたいものです。

この夏休み、ルンビニ園の子ども達は、それぞれが思い思いの時間を過ごしました。とりわけ園としては、四つの各ホームが独自に計画をし、小さな子ども達は、太閤山ランドプールで泳ぎ、大きい子ども達は、映画鑑賞やジオラマ鑑賞で楽しみました。また、自衛隊艦艇の一般公開に参加するなど、充実した夏休みになったようです。

夏休みが終わりますと、何人かの子ども達の退園が目前に迫ってまいります。社会に船出していく子どもたちの自立に向けて、私たちも出来る限りの力を注いでまいります。

職員一同